

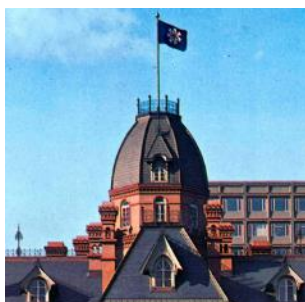
赤れんが庁舎改修事業 屋根銅板の葺き替えについて

赤れんが庁舎の屋根の銅板は銅の経年変化により色が変わってきました。



昭和43年秋（復原改修直後）

復原改修工事では、新しい銅板で屋根を葺いたので、赤褐色でした。



昭和44年秋頃

竣工の1年後には、既に落ち着いた褐色になっています。



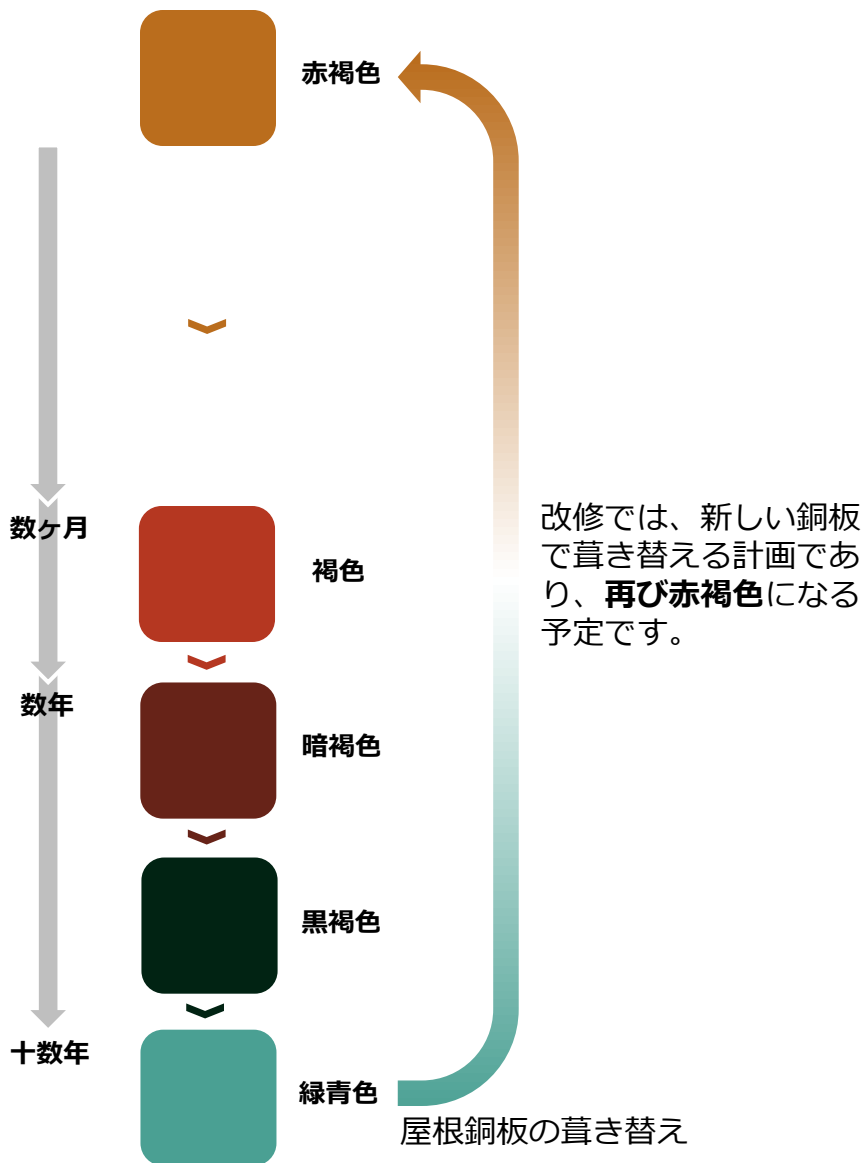
現在（改修工事前）

現在は、緑青が吹いており、青みがかった緑色です。

銅の色の経年変化

出典：一般社団法人 日本銅センター

<http://www.jcda.or.jp/feature/tabid/83/Default.aspx>



銅は、空気中の硫黄化合物や酸素、二酸化炭素、雨などの水分と反応して表面に安定した酸化皮膜が生じます。

この酸化皮膜の化学反応が進むにつれ銅の色は変化し、最終的には緑青色になります。



- このたびの改修では、新しい銅板で葺き替える予定であり、**再び赤褐色**になる予定です。
- 葺き替え後は、また**十数年の時間**をかけて緑青色へと変化していきます。
- 葺き替え工事（令和5年（2023年）10月頃～予定）の様子は、**仮設見学施設**（令和5年春公開予定）で見学することができます。